

# 平成23年度 キャリア教育研修資料



周南市立周陽中学校

# 平成23年度キャリア教育全体計画

周南市立周陽中学校

**国の施策の方針**  
「若者自立・挑戦プラン」  
↓  
「キャリア教育等推進プラン」  
↓  
「中央教育審議会答申『今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について』」

**県の3つの基軸による取組**  
キャリア教育の推進

**小学校・高校との連携**  
・学習内容の関連付け  
・体験学習内容等の調整  
・教育課程の連携

**学校教育目標**  
「人間性豊かで、心身ともにたくましく  
思いやりのある生徒の育成」  
～人間力の向上を旨として（2年次）～

**経営方針（笑顔で信頼と活力のある学校）**  
1 キャリア教育の視点ですべての教育活動を実践する。  
2 キャリア・アップ・プラン（2目標、8プラン）を実践する。  
（目標1）人間力の育成  
○生徒のキャリア・アップ・プラン  
（目標2）信頼される学校づくり  
○教師のキャリア・アップ・プラン  
○保護者・地域のキャリア・アップ・プラン

**学校評価を活用し、家庭・地域社会との連携強化**  
【経営信条】「規律と信頼のある人にやさしい学校づくり」

**めざす生徒像**  
・意欲的で主体的に考えて学ぶ生徒（知）  
・たくましく、心と体の元気な生徒（体）  
・誠実で思いやりのある生徒（徳）  
・心豊かで表現や創造に熱心に取り組む生徒（情）  
【夢と希望をもち、自らの進路を進んで切り拓く生徒】

**生徒の様子**  
・授業や諸活動に前向きに取り組む生徒が多い。  
・あいさつができ、素直な生徒が多い。  
・活躍の場を与えられれば力を発揮する生徒が多い。  
・集会時など聞く姿勢ができています。

**地域、保護者の様子**  
・校区内には3つの小学校がある。（周陽、桜木、遠石）  
・近くに商店街やスポーツ施設がある。  
・PTAを中心に保護者が協力的である。  
・地域の活動が盛んである。  
・経済的に厳しい家庭がある。

**キャリア教育指導目標**  
・一人ひとりのキャリア発達への支援とその的確な把握に努める。  
・キャリアに関する学習と教科等の学習との相互補完性を重視するとともに、体験や講話を通し職業や進路への関心意欲の高揚と学習意欲の向上に努める。  
・将来、職業人として自立し、時代の変化に柔軟に対応できる幅広い能力の育成に努める。  
・働くことの意義を理解させ、自立意識の涵養と豊かな人間性を育成する。

人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
---------------	-------------	--------	--------------

各学年の指導目標		
1年	2年	3年
<ul style="list-style-type: none"> <li>将来の職業生活との関連の中で、今の学習の必要性や大切さを理解させる。</li> <li>学習の過程を振り返り、次の選択場面に生かそうとする態度を育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な体験等を通して勤労の意義や働く人々の様々な思いが分かるようにする。</li> <li>よりよい生活や学習、進路や生き方等を旨として自ら課題を見いだしていくことの大切さを理解させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>係・委員会活動や職場体験活動等で得たことを以後の学習や選択に生かそうとする態度を育成する。</li> <li>新たな課題に積極的に取り組み、主体的に解決していくこととする態度を育成する。</li> </ul>

各教科	道徳	特別活動	総合的な学習の時間・その他
<ul style="list-style-type: none"> <li>成就感・達成感や生徒指導の3機能を生かした授業に心がけ、将来の職業生活に必要な基礎的知識・技能の習得を図る。</li> <li>キャリア発達に必要な4つの基礎的・汎用的能力を育成するための学習支援を意図的・継続的に実践する。</li> <li>学ぶ喜びをもち、主体的に学習する（やる気）生徒を育成する。</li> <li>定期的な授業評価（生徒・保護者による）により授業改善を図る。</li> <li>生徒の実態に即した学力向上プランを実施する。</li> <li>研究授業により授業力の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己が属する様々な集団の意義についての理解を深め、役割と責任を自覚し、集団生活の向上に努めようとする態度を育成する。</li> <li>勤労の尊さや意義を理解するとともに、奉仕の精神をもって、公共の福祉と社会の発展に努めようとする道徳的実践力を育成する。</li> <li>発達の段階に応じて指導内容を重点化し、体験活動を推進する。</li> <li>道徳の時間を要として、すべての教育活動で実践する。</li> <li>先人の伝記、スポーツなど感動を覚える教材を活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>学級活動</b> ・生活上の諸問題の解決、組織づくりや仕事の分担処理などの活動、個人および社会の一員としての在り方、学業生活の充実および将来の生き方と進路の適切な選択に関することなどの指導の充実を図る。</li> <li><b>生徒会活動</b> ・学校生活の充実・改善向上を図る活動やボランティア活動を通して将来設計能力や意思決定能力などを培い、個性の伸長や社会性を高める。</li> <li><b>学校行事</b> ・奉仕的行事における職業や進路に関わる啓発的な体験やボランティア活動などの自主的・自発的な活動を通し、主体的態度を育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えさせる。</li> <li>5日間の職場体験学習、ボランティア活動などの社会体験、宿泊研修、修学旅行での体験活動、高校体験入学、観察・実験、見学や調査、プレゼンテーションや討論などの学習を充実させる。</li> <li>集団生活への適応と選択教科や進路の選択にかかるガイダンス機能の充実を図る。</li> <li>部活動は人間関係形成・社会形成能力を高める場として重要であり、生徒に積極的な活動を促す。</li> <li>積極的な生徒指導を推進し、豊かな人間性や社会性、集団生活に必要な規範意識やマナーを育み、生徒一人ひとりの自己指導能力を培う。</li> </ul>

**地域・他機関との連携**  
・学校支援地域本部事業の活用  
・キャリアアドバイザーの活用  
・地元事業所との連携  
・3地区の公民館との連携を強化

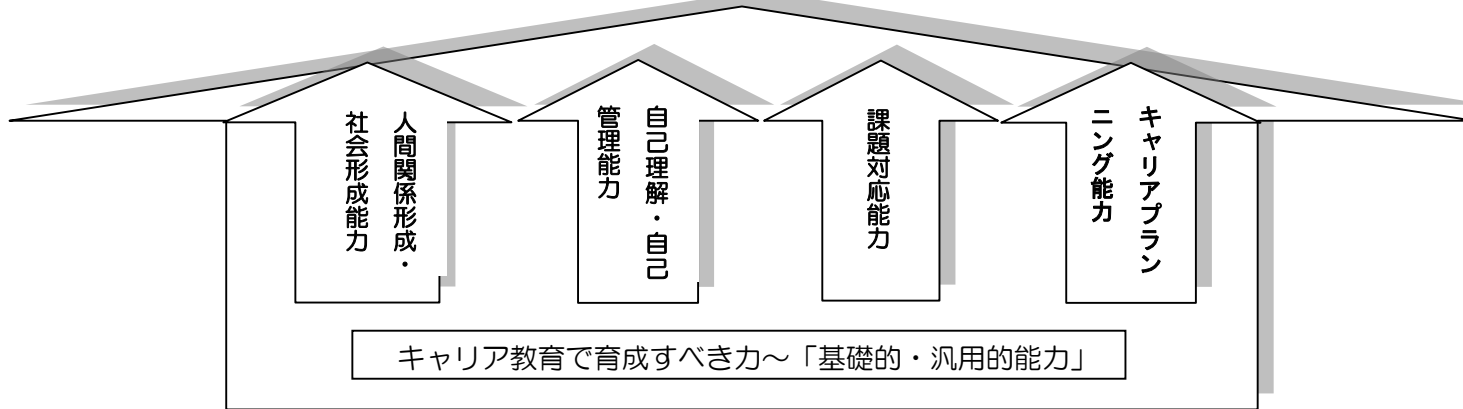
**保護者との連携**  
・学校から保護者への積極的な働きかけ  
・家庭の役割の自覚と学校教育への積極的な参画

**個別指導**  
・年1回以上のキャリアカウンセリングの実施（教育相談の中で）  
・目標設定と実践力の向上

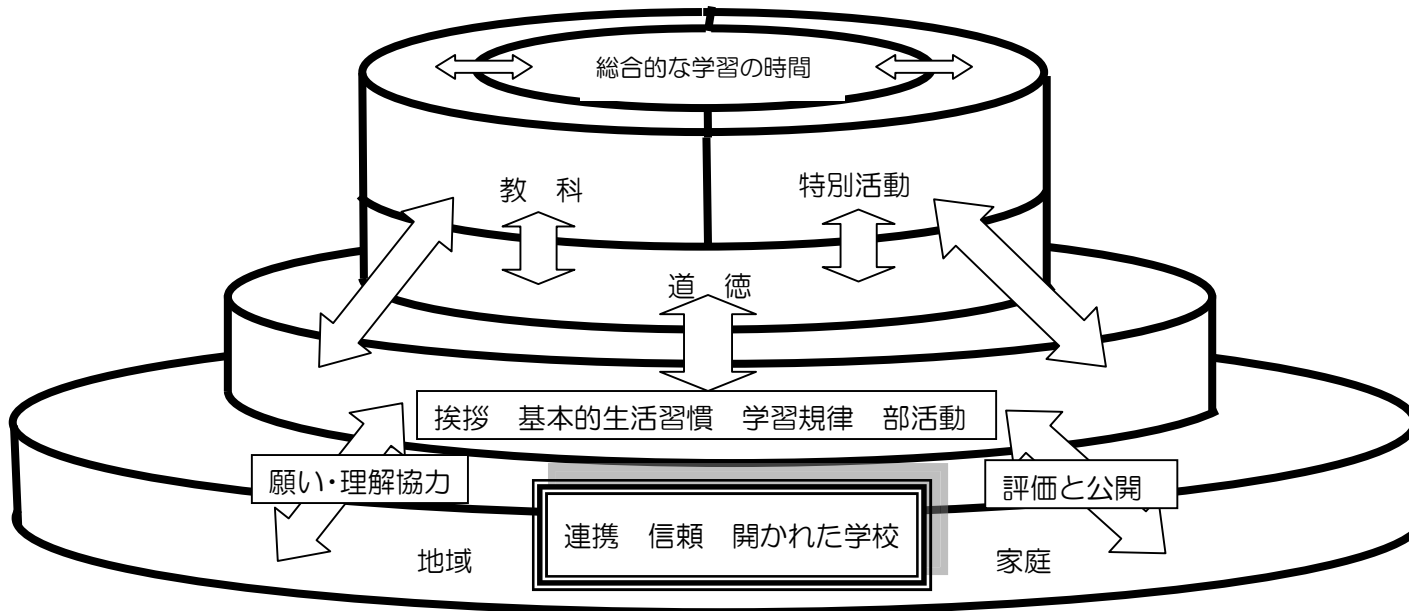
学校教育目標「人間性豊かで。心身ともにたくましく、思いやりのある生徒の育成」 ～人間力の向上をめざして（2年次）

めざす生徒像 一意欲的で主体的に考えて学ぶ生徒 ・ 誠実で思いやりのある生徒 ・ たくましく心と体の元気な生徒 ・ 心豊かで表現や創造に熱心に取り組む生徒  
【夢と希望を持ち、自らの進路を進んで切り拓く生徒】

確かな学力の育成



キャリア教育の推進



## キャリア教育の推進について

- 1 キャリア教育とは  
「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」
- 2 キャリアとは  
「人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見いだしていく連なりや積み重ね」のこと → 自分の役割を果たして活動すること（働くこと）を通して、人や社会にかかわることになり、そのかかわり方の違いが「自分らしい生き方」となっていく。
- 3 キャリア発達とは  
「社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程」のこと  
→ 自己の知的、身体的、情緒的、社会的な特徴を一人一人の生き方として統合していく過程
- 4 キャリア教育で育成すべき能力⇒「4つの基礎的・汎用的能力」（4領域・8能力を補強したもの）

	基礎的・汎用的能力	能力の説明	具体的な要素
1	◇人間関係形成・社会形成能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>☞多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力。</li> <li>☞この能力は、社会とのかかわりの中で生活していく上で、基盤となる能力である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○他者の個性を理解する力</li> <li>○他者に働きかける力</li> <li>○コミュニケーション・スキル</li> <li>○チームワーク</li> <li>○リーダーシップなど</li> </ul>
2	◇自己理解・自己管理能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>☞自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする力。</li> <li>☞この能力は、子どもの若者の自信や自己肯定感の低さが指摘される中、「やればできる」と考えて行動できる力である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自己の役割の理解</li> <li>○前向きに考える力</li> <li>○自己の動機付け</li> <li>○忍耐力</li> <li>○ストレスマネジメント</li> <li>○主体的行動など</li> </ul>
3	◇課題対応能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>☞仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立てて、その課題を解決することができる力。</li> <li>☞この能力は、自らが行うべきことに意欲的に取り組む上で必要なものである。また、知識基盤社会の到来やグローバル化等を踏まえ、従来の考え方や方法にとらわれずに物事を進めていくために必要な力である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○情報の理解・選択・処理等</li> <li>○本質の理解</li> <li>○原因の追及</li> <li>○課題発見</li> <li>○計画立案</li> <li>○実行力</li> <li>○評価・改善など</li> </ul>
4	◇キャリアプランニング能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>☞「働くこと」の意義を理解し、自ら果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置づけ、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自らキャリアを形成していく力。</li> <li>☞この能力は、社会人・職業人として生活していくために生涯にわたって必要となる能力である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学ぶこと・働くことの意義や役割の理解</li> <li>○多様性の理解</li> <li>○将来設計</li> <li>○選択</li> <li>○行動と改善など</li> </ul>

## 能力領域のモデル

NO	能力領域	モデル（評価の観点、行動の記録等）
1	人としての自覚、ライフスタイル	基本的な生活習慣、自己受容・公正・公平、公共心・公德心、使命感、生命尊重・自然愛護、人生観・職業観・価値観・倫理観、指導等を素直に受ける姿勢、忍耐力、セルフコントロール、危機管理能力、社会・組織と自己の関係認識、生きる力等。
2	学習・仕事への意欲、関心、責任感	学習・仕事への主体的・積極的な関わり、好奇心、動機付け、最後までやり抜く意欲、自分の判断や行動に責任を持つ、実践力等。
3	基礎・専門知識、技術、応用力	読み書き計算の基礎知識、専門的な知識・技術、得意分野の深耕、報告・連絡・相談・記録・指示の方法、資格取得等
4	分析、問題解決能力	情報収集・分析・活用、課題発見・解決能力、事業を科学的に分析し課題を発見し計画し解決する力、的確で敏速な実務処理等。
5	企画開発、創造力	目的に合う企画・立案・提案力、創造力、斬新な発想・アイデア、改革力等。
6	協調性、順応性	適応力、チームワーク、目標の共有化、他人に共感、思いやりと協力、仲間意識、感性の違いを受容、自他の欲求のバランス等。
7	コミュニケーション能力	自己表現、意見表明、周囲の声を傾聴、プレゼンテーション能力、あいさつ・言葉遣い等の基本、円滑な人間関係、ネットワークの活発化、カウンセリング・マインド等
8	リーダーシップ	瞬時の状況判断で最適な決断と行動、問題解決のためのマネジメント、調整能力、率先力、指導力等。
9	体力保持、運動能力	基本的な生活の体力、積極的に身体を動かす運動能力、瞬発力、持続性、リズムカルな生活、健康・体力保持等

※この表は、全国の官庁・企業等の管理職を対象に実施したアンケート調査「入社1・3・7年目の社員に望む能力開発、伸びる社員か否かの差異」の結果を調査し、各能力領域のモデルとしてまとめたものである。

これらの能力領域は、企業人となる以前、つまり学校段階で習得しておくべきことに留意し、これらをヒントに、「今、学校現場で求められるもの」を考え、子どもたちのよりよいキャリア形成に努めたい。

（引用文献：「個人主導のキャリア形成 ～今、教育現場で求められるもの～」 東京経営短期大学教授 宮崎 冴子）

キャリア発達のために育成すべき4領域能力（例） 周南市立周陽中学校

4領域	8能力	中学前期	中学後期
人間関係形成能力	自他の理解能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の長所と短所に気づき、集団の中で自分らしさを発揮する。</li> <li>話し合いに積極的に参加し、自分と異なる意見も理解しようとする。</li> <li>自分の生活を支えている人の気持ちが分かり、感謝する気持ちを表す。</li> <li>相手の気持ちを思いやり、優しい関わり方で人に接する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分のよさや個性が分かるとともに、様々な場面において、他者のよさや感情を理解し尊重する。</li> <li>自分のよさや個性を伸ばし、他者とのよりよい人間関係をつくるための方法を考える。</li> <li>自分の言動が相手や他者に及ぼす影響が分かる。</li> <li>自分の悩みを話せる人をつくる。</li> </ul>
	コミュニケーション能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>人間関係の大切さを理解し、コミュニケーションスキルの基礎を習得する。</li> <li>集団や組織の活動では、他者と協力して役割と責任を果たそうとする。</li> <li>友達と協力して学習や活動に取り組む。</li> <li>新しい環境や人間関係に適應するための方法を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他者に配慮しながら積極的に人間関係を築こうとする。</li> <li>習得したコミュニケーションスキル充実・発展させる。</li> <li>リーダーとフォロアーの立場を理解し、チームを組んで互いに支え合いながら学習や活動に取り組む。</li> <li>よりよい人間関係を構築するための方法を考える。</li> </ul>
情報活用能力	情報収集探索能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な産業、職業の様子やその変化が分かる。</li> <li>分からないことを、図書館等で調べたり、質問したりする。</li> <li>調査して分かったことや自分の考えを分かりやすくまとめ、資料を有効に使って発表する。</li> <li>調べるための方法が分かる。</li> <li>いろいろな情報を収集する中で、働くことの意義を理解し、自分の生き方について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会の変化に伴う職業や仕事の変化のあらましを理解し、上級学校・学科等の種類や特徴及び職業に求められる資格や学習歴の概略が分かる。</li> <li>生き方や進路に関する情報を、様々なメディアを通して、調査・収集・整理し活用する。</li> <li>必要に応じ獲得した情報に創意工夫を加え、プレゼンテーションで発表する。</li> </ul>
	職業理解能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボランティア活動や福祉体験等を通し、働くことの大切さや苦労が分かる。</li> <li>学んだり体験したりすることと、自分の生活や職業との関連を考える。</li> <li>係や委員会活動、当番活動等に積極的に取り組む。</li> <li>インタビューや質疑応答、意見交換の仕方に学ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職場体験を通して、勤労の意義や働く人々の様々な思いが分かる。</li> <li>将来の職業生活との関連のなかで、今の学習の必要性や大切さに気づく。</li> <li>係や委員会活動、職場体験等で得たことを以後の学習や選択等に生かす。</li> <li>職場体験等で必要に応じて、メモをしながら聞いたり、質疑応答をする。</li> </ul>
将来設計能力	役割把握認識能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会生活にはいろいろな役割があることや、その大切さが分かる。</li> <li>自分の果たすべき役割を考える。</li> <li>楽しい集団生活のためにできることを考えて実行しようとする。</li> <li>日常生活や学習と将来の生き方との関係に気づく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の役割やその進め方、よりよい集団生活のための役割分担やその方法が分かる。</li> <li>日常生活や学習と将来の生き方との関係を理解する。</li> <li>様々な職業の社会的役割や意義を理解し、自己の生き方を考える。</li> </ul>
	計画実行能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>将来の夢や希望をふくらませ、その実現に向けての筋道を具体的に考える。</li> <li>計画づくりの必要性に気づき、作業の手順が分かる。</li> <li>自分にふさわしい職業や仕事を考え、それに向けてしなければならないことを考える。</li> <li>学習（定期考査等）の計画を立案し実行する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>将来の夢や職業を思い描き、自分にふさわしい職業や仕事への関心意欲を高める。</li> <li>進路計画を立てる意義や方法を理解し、自分のめざすべき将来設計計画（ライフプラン）を立てる。</li> <li>将来の進路希望に基づいて当面の目標を立て、その達成に向けて努力する。</li> </ul>
意思決定能力	選択能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>係活動や委員会活動等で自分のやりたいこと、やれそうなことを選び進んで取り組む。</li> <li>いろいろな仕事の中から自分が興味ある仕事をいくつか選択できる。</li> <li>自分がやりたい、あるいは自分に必要だと思う学習内容を選んで取り組むことができる。</li> <li>地域や社会のために自分にもできることがあることを知る。</li> <li>してはいけないことは自制する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己の個性や興味・関心に基づいて、よりよい選択をしようとする。</li> <li>選択の意味や判断・決定の過程、結果には責任が伴うことを理解する。</li> <li>教師や保護者と相談しながら、当面の進路を選択し、その結果を受け入れる。</li> <li>地域や社会のために自分たちができることを具体的に提示し、話し合う。</li> <li>将来就きたい仕事について、その選択理由を自分なりに納得がいく考えを持ち、発表することができる。</li> </ul>
	課題解決能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校生活や学習上の自己の課題を見つけることができる。</li> <li>自己の課題を真正面からとらえ、その解決に向けてねばり強く取り組もうとする。</li> <li>将来の夢や希望をもち、実現をめざして努力しようとする。</li> <li>自分の仕事に対して責任もって最後までやり通す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習や進路選択の過程を振り返り、その選択場面に生かす。</li> <li>よりよい生活や学習、進路や生き方等を、めざして自ら課題を見いだしていくことの大切さを理解する。</li> <li>課題に積極的に取り組み、主体的に解決していこうとする。</li> </ul>

# キ ャ リ ア 教 育 実 践 企 画 書

学習内容	ゲストティーチャーによる教育講演会		
日 時	平成22年9月24日(金) 13:35~16:00		
場 所	周南市立周陽中学校 体育館		
対 象	全生徒・保護者・教職員・地域住民		
ね ら い	ゲストティーチャーのこれまでの生き方や教育実践などを通して、自己の生き方を見つめ直すとともに、将来の夢の実現に向けて、自らのモチベーションを高め、自分らしい生き方を求めようとする意欲と態度を育む。	基礎的・汎用的能力  【キャリアプランニング能力】	
準 備 物	マイク(2本)、お茶、花束、ホワイトボード、演台		
指 導 者	西日本短期大学附属高等学校 元教頭 平岡三光先生		
位置づけ	総合的な学習の時間(進路指導)		
事前指導	あいさつ、話を聴く姿勢、講師のプロフィール		
活動内容	内 容	備 考	能力領域のモデル
	<p>○5・6校時、清掃カット 司会進行(三坂)</p> <p>1 13:35~13:45 生徒入場 2 13:45~13:50 講師紹介(校長) 3 13:50~14:50 講演会(1時間程度) ○演題「心豊かな人間づくりをめざして」 ○講師：元西日本短大附属高校教頭 平岡三光先生</p> <p>3 14:50~15:00 質問タイム 4 15:00~15:05 お礼 ○お礼の言葉、花束の贈呈 生徒会長、生徒会副会長(内藤)</p> <p>5 15:05~15:30 生徒退場、トイレ休憩 6 15:30~16:00 感想文作成 7 16:00~16:10 終わりの会</p> <p>※プロフィール 西日本短大附属高校に英語教師として赴任され、教頭になられる。同校に40年間勤務され、平成17年3月末に定年退職。先生は「あいさつ先生」との別名をもたれるくらいに徹底したあいさつをされる。先生のことを記した文章の中に「愚直にあいさつを続け、生徒に丁寧に教え、かつ生徒が実行するまでやめない。ひたすら行う。天から挨拶三昧を命じられた男」と記してある。大学時代は柔道部に籍を置き、インターカレッジ九州大会で個人優勝。全国大会で3位の実績がある。柔道七段</p>	<p>・プロフィールは事前に準備</p> <p>・メモを取りながら集中して話を聴く。 ・メモ用紙は教務で準備(A4用紙1枚)</p> <p>・質問がでないことも予想されるので、事前に質問者を選定しておく。 ・生徒会執行部の指導と花束の準備(費用は上田が準備) ・感想文用紙は教務で準備(罫線が入ったA4用紙1枚)</p>	【人としての自覚、ライフスタイル】
事後指導(評価)	全員に感想をかかせ、今後の目標の参考とする。また、担任が講師の話のフォローをし、学習面・生活面などでさらなる意欲の向上を図る。	<p style="text-align: center;">主な評価の観点</p> <p>・メモを取りながら集中して講師の話を聴くことができたか。 ・講師の生き方に共感できたか。 ・講話の内容を理解し、自分の生き方を見直すことができたか。</p>	

## 【例】 秋季大運動会の計画書をキャリア教育の視点から作成

周南市立周陽中学校

### ○ 目的

- (1) 仲間と団結・協力してきまりを守り、積極的に活動することにより、喜びや感動を味わわせる。
- (2) 集団行動を通して、規律ある行動の育成を図るとともに、体育活動の意欲を高め、気力・体力の向上に努める。
- (3) 学校と保護者・地域のコミュニケーションを深めるとともに、相互の連携を高める。

### ★キャリア教育の視点

- 自分の仕事に対して責任をもって最後までやり通す。【課題対応能力】
- 自分の役割を認識し、委員や係の仕事に積極的に取り組む。【自己理解・自己管理能力】
- 活動計画を立て、活動の反省をしながら次の計画を進める。【キャリアプランニング能力】
- いろいろな情報を収集し、創意工夫しながら演技をよりよいものにする。【キャリアプランニング能力】
- 活動を通し、自分のよさや他者のよさを再発見し、やさしい関わり方で接する。また、仲間と協力して活動に取り組む。【人間関係形成・社会形成能力】

運動会は、学校行事（特別活動）として実施されているが、内容によっては、生徒が課題を見つけ、考え、協力して創り上げたものを運動会という檜舞台で発表する活動が多くあり、総合的な学習の時間のねらいである「(1) 自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考える力の育成 (2) 情報を集め、調べてまとめて発表する力を身につける」という2つの点を網羅しており、生徒一人ひとりの自主性や主体性などを育成することにつながっている。

運動会という行事を通して、生徒一人ひとりが将来に向けて、自立した一人の人間として力強く生きていくための能力や意欲・態度の育成につながるものと考えている。

### ◎自己評価

- 自分のよさや友達のよさを発見することができた。
- 相手の気持ちを思いやり、やさしい関わり方で接することができた。
- 人のアドバイスや意見を素直に聞くことができた。
- 友達と協力して活動に取り組むことができた。
- 委員や係の仕事に積極的に取り組むことができた。
- 自分の仕事に対して責任をもって最後までやり通した。

**Q1 キャリアとは**

キャリアとは、「人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見いだしていく連なりや積み重ね」のことをいう。この「キャリア」は、人が成長し、様々な経験を積み重ねる中で変化していくものである。また、集団の中で他者と関わりながら、それぞれのふさわしい「キャリア」が形成されていきことが必要になる。

**Q2 キャリア教育とは**

キャリア教育とは、「一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」のことをいう。

具体的には、子どもたちがキャリア形成していくために必要な4つの基礎的・汎用的能力、「人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力」を育くむ教育活動のことをいう。

**Q3 キャリア発達とは**

キャリア発達とは、「人が社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程」のことで、子どもたちが、すべての教育活動の中で、キャリア教育で育むべき、4つの基礎的・汎用的能力をそれぞれの発達段階に応じて、段階的に身につけていくことをいう。

**Q4 勤労観・職業観とは**

「勤労観」とは、勤労に対する価値的な理解・認識である。職業としての仕事や勤めだけでなく、ボランティア活動、家事や手伝い、その他の役割の遂行などを含む。働くことそのものに対する個人の考え方、価値観であり、個人が働くこととどのように向き合っていくかという姿勢や構えを規定する基準となるものである。

「職業観」とは、人それぞれの職業に対する価値的な理解であり、人が生きていく上での職業の果たす意義や役割についての認識である。「職業観」は、人が職業そして職業を通じた生き方を選択するに当たっての基準となり、また、選択した職業によりよく適応するための基盤となるべきものである。

**Q5 望ましい「勤労観・職業観」とはどのようなものか****○理解・認識面**

- (1) 職業には貴賤がない。 ※貴賤・・身分の高いと低い人。
- (2) 職務遂行には規範の遵守や責任が伴うこと。
- (3) どのような職業であれ、職業には生計を維持するだけでなく、それを通して自己の能力・適性を発揮し、社会の一員としての役割を果たすという義務があること。

## ○情意・態度面

- (1) 一人ひとりが自己及びその個性をかけがいのない価値あるものであるとする自覚
- (2) 自己と働くこと及びその関係についての総合的な検討を通じた職業・勤労に対する自分なりの構え
- (3) 将来の夢や希望の実現を目ざして取り組もうとする意欲的な態度

### Q6 キャリア教育と進路指導との違いは何か

- (1) 進路指導は、生徒が進路を選択し決定する力を付けることを目標とし、**自己理解、職業・進路理解、選択決定の3段階で支援する活動**であるが、キャリア教育は、教育と仕事を結びつける総合的な教育活動で、「**人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力**」の4つの**基礎的・汎用的能力の発達を意図的・継続的に支援する活動**である。(簡単に言えば、社会人・職業人として自立するために必要な能力・態度を育成することである)
- (2) 進路指導の6つの活動と学習プログラムの枠組みの「キャリア教育で育成する4つの基礎的・汎用的能力」との関連  
文部省「中学校・高等学校進路指導の手引き～進路指導編」(1977)では、進路指導の6つの活動を次のように示している。

- ①個人資料に基づいて生徒理解を深める活動と生徒に正しい自己理解を得させる活動(自己情報理解)
- ②進路に関する情報を得させる活動(自己以外の情報理解)
- ③啓発的な経験を得させる活動(啓発的経験)
- ④進路に関する相談の機会を与える活動(進路相談)
- ⑤就職や進学等に関する指導・援助の活動(就職や進学への指導援助)
- ⑥卒業生の追指導等に関する活動(追指導)

従来、中学校及び高等学校は、進路指導の6つの活動に基づいて、生徒への進路指導を実施してきた。しかし、小学校においては、進路指導の考え方で教育実践がなされてこなかった。そのため、小学校においてキャリア教育を実践する際には、この6つの活動を理解した上で、小学校児童に適した活動にすることが必要である。(①～④まで)

各学校がキャリア教育の指導計画を立案する際には、その中心となる教科等の活動を学習プログラムの枠組みの「キャリア教育で育成する4つの基礎的・汎用的能力」を視点に見直し整理した活動を、進路指導の6つの活動のどれを活用するかを決める必要がある。また、キャリア教育のねらいを達成するために、マネジメントサイクルを活用して、よりよい指導計画を立案する必要がある。

### Q7 授業の工夫・改善とはどのようなことか

キャリア教育が目ざす4つの基礎的・汎用的能力の育成という視点は、生きる力や確かな学力と関連があることから、授業改善に結びつくと考えられる。

#### Q8 キャリア教育を推進するためにどのような条件整備が必要か

- (1) 教員の資質向上を図り、専門的能力を有する教員を育成する。
- (2) 保護者との連携を推進する。
- (3) 学校外の教育資源を活用するためのシステムづくりをする。
- (4) 地域社会・関係機関・企業等との連携を進め、社会全体で取り組むキャリア教育への理解を促進する。

#### Q9 キャリア教育を実践する上での共通理解を図る内容は

- (1) キャリア教育とは、4つの基礎的・汎用的能力の育成を図る教育活動であること。
- (2) 4つの能力の育成は、学校の教育活動全体を通じて行うものであること。
- (3) 4つの能力は、キャリア教育が目ざす「社会人・職業人としての自立」を図るための能力や態度に結びつくものであること。
- (4) 子どもたちの心身の発達課題や発達段階に応じた支援になるよう、系統的・継続的にキャリア教育を実践することが重要であること。

#### Q10 なぜ小学校からキャリア教育が必要なのか

小学校段階は進路の探索・選択にかかわる基盤を形成する大切な時期である。小学校の段階から、発達段階に応じて、社会の仕組みや自己と他者あるいは社会の関係を理解できるようにするとともに、そうした理解の上に立って、自分の力で自分の人生をつくるのだという意識をもたせたり、仕事に対する責任感や強い意志を涵養したりするなど、将来の精神的・経済的自立を促したりするための取り組みを積極的に進めていく必要がある。

#### Q11 4つの基礎的・汎用的能力の育成目標はどうかとらえたらよいか

4つの基礎的・汎用的能力の育成目標は、児童・生徒に系統的なキャリア教育を行うための指針として、とらえることができる。

#### Q12 キャリア教育の評価はどうしたらよいか

発達段階に応じて4つの基礎的・汎用的能力を適切に育成するためにも目標として示した内容が、児童・生徒にどの程度身に付いているか等の達成状況から評価することができる。

#### Q13 キャリア発達を支援するとはどのようにすることなのか。また、どのような力を育てていくのか

- (1) キャリア発達の支援とは、勤労観・職業観の形成に関連する人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力の4つの基礎的・汎用的能力をそれぞれの発達段階に応じて育成するように指導することである。
- (2) 指導する際には、4つの基礎的・汎用的能力について発達段階に応じて児童・生徒が身に付けることが期待される能力・態度を具体的に明確にした育成目標を立て、それを

キャリア発達の見取り図とするとともに、児童・生徒にどのような能力・態度が身についているかを見るための基準とする。

- (3) 小学校・中学校・高等学校のそれぞれの発達段階に応じて、1 2年間を通して継続的に指導することにより、望ましいキャリア発達が可能となる。

#### Q14 家庭や地域と連携するために、どのようなことに留意しなければならないか

日頃から、児童・生徒の様子、教育活動の情報を学校だより等で伝えたり、学校行事等に参加してもらったり、地域と交流したりすることなどで、信頼関係を築くことが大切である。

#### Q15 勤労観・職業観の育成のために家庭・保護者はどのようなことをしなくてはならないか

- (1) 基本的な生活習慣を身につけさせ、しつけを行う。
- (2) 子どもの話をよく聞き、子どもを十分に理解し、自己肯定感をもたせる。
- (3) **家事を分担させ、家庭での役割に責任感をもたせる。**
- (4) 様々な職業生活の実際や仕事には苦労もあるがやりがいもあることを伝える。
- (5) 将来への夢をもたせ、自立心を育てる。

#### Q16 学校が保護者と連携を密にするためにはどのようなことを理解しておかなくてはならないか

- (1) キャリア教育の必要性や学校の取り組みなどについて、家庭・保護者と共通理解を図りながら進める事が重要である。
- (2) 家庭や保護者の養育の在り方、働くことに対する考え方や態度が、子どものキャリア発達に大きな影響を与える。
- (3) 子どもの進路に関する保護者の考え方や態度は多様である。
- (4) 保護者が子どもたちに講話等を行うことの教育効果は大きく、保護者のそれらの活動の姿から子どもたちは多くのことを学ぶ。

#### Q17 企業、関係機関、地域社会等との連携活動にはどのようなものがあるか

- (1) 職場体験、工場見学やインターンシップで児童・生徒を受け入れてもらう。
- (2) キャリア・アドバイザーとして学校に従業員等を派遣してもらい、様々な職業の話を伝えてもらう。
- (3) 地域の行事やボランティア活動に児童・生徒を参加させてもらう。
- (4) 大学、専門学校等におけるオープンキャンパス等に生徒を参加させたり、聴講させたりする。
- (5) 小・中・高校生による相互の学校訪問や高校・大学からの「出前授業」などを行う。

**Q18 企業、関係機関、地域社会等との連携活動を行うことはどのような意義があるのか**

- (1) 企業、関係機関、地域社会が自分の教育における役割や、学校の取り組みを理解する。
- (2) 多様な人との関わりを経験させ、コミュニケーション能力を育む。
- (3) 仕事をしている人と話すことで、仕事に必要な資質や能力などを知る。
- (4) 様々な仕事やそれに携わる人々の姿を見ることにより、仕事や働くことに対する興味・関心をもつ。

**Q19 企業、関係機関、関係団体等と連携活動を行う際は、どのようなことに留意しなくてはならないか**

企業等は社会貢献の趣旨から、様々な相談にのってくれるが、それぞれの企業等がもつ多様な役割や機能を理解し、学校がどのような目的で連携事業を行いたのかを明確にして相談することがなによりも大切である。

**Q20 キャリア教育を行うためには特別なことを新しく行わなくてはいけないのか**

現在の教育活動には、4つの基礎的・汎用的能力の育成を図ることができる教育活動が多数ある。キャリア教育は特別なことではなく、今までの教育活動の中で4つの能力の育成を意識することで実施することができる。

**Q21 各教科、領域の目標にキャリア教育が合致していないときはどのようにしたらよいのか**

各教科、領域の目標に基づいた学習活動を行う中で、4つの基礎的・汎用的能力を育成できる活動を取り入れる。

**Q22 キャリア教育と関連を図って教育活動を行うために必要なことは何か**

- (1) キャリア教育には、児童・生徒が行うすべての学習活動等が影響するので、**キャリア教育は学校のすべての教育活動を通して行う。**
- (2) キャリア教育の全体計画やそれぞれ具現化した指導計画を作成する。また、その際、各発達段階における能力・態度の到達目標を具体的に設定する。
- (3) 各学校においては、各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間等の学習指導要領におけるキャリア教育に関連する事項(4つの基礎的・汎用的能力の育成に関わる事項)を確認し、相互の関連性や系統性に留意の上、有機的に関連づけ、発達段階に応じた創意工夫ある教育活動の展開を行う。また、各学校の教育課程に適切に位置づけるとともに、校種間の連携や一貫性に留意する。
- (4) 職場体験やインターンシップなどの体験活動等は、勤労観・職業観の形成、学ぶことの意義の理解と学習意欲の向上等、様々な教育効果が期待され、児童・生徒に現実に立脚した確かな認識を育む上で、欠かすことができないものである。また、それが一過性

の行事とならないように事前・事後指導の充実が必要である。

### Q23 学校教育における各領域とキャリア教育はどのような関係があるのか

- (1) 各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間においては、当該各教科の学習を通して、自己の生き方を探究したり、将来就きたい職業や仕事への関心・意欲を高めたりすること、また、社会や産業の変化、労働者の権利や義務についての理解を深める取り組みを通して、目ざすべき職業や上級学校の学部・学科を選択する力を身につけることなどが考えられる。
- (2) 職業教育においては、生徒が自己の目ざす将来の職業やその分野に関する知識や技能を習得したり、具体的な情報を得ることを通し、必要な資質・能力をより深く自覚し、専門的な知識・技能をより高めようとする意欲や姿勢を身につけることなどが考えられる。
- (3) 特別活動、道徳、総合的な学習の時間はそれらが教科の学習で学んだ成果等を様々な体験活動や話し合いを通して深化、発展、統合させたり、逆にその効果を教科の学習に還元し、反映させていくというねらいをもっている。このため、そこで展開される職業や進路に関連する学習活動は、キャリア教育を進める上で、直接的かつ中核的な取り組みとして最も重要な役割を担うものである。

### Q24 キャリア教育の全体計画はどのように活用するのか

学年別年間指導計画や学習指導案、行事計画などを作成する際の指針となる。

### Q25 キャリア教育を推進するために学校として必要な取り組みはどのようなものか

- (1) 指導計画（全体計画・学年別年間指導計画）を作成する。
- (2) キャリア教育の担当者、担当組織を校務分掌に置く。
- (3) 校内でキャリア教育推進のための教材開発や指導方法などの研修を行う。
- (4) キャリア教育を推進する教員を育成することを目的とした校外の研修に参加する。
- (5) キャリア教育のために、家庭や地域との連携を図る。

### Q26 教科・領域の目標と4つの基礎的・汎用的能力の育成目標に合致するものがないがどうしたらよいか

各教科・領域には、それぞれの学習目標がある。キャリア教育は、その目標に沿った教育活動の中で4つの基礎的・汎用的能力の育成を図ることができる手だてを取り入れるとよい。

### Q27 キャリア教育の学年別年間指導計画を作成することの意義はどのようなことか

キャリア教育の学年別年間指導計画を作成することにより、教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間、進路指導、生活指導などの様々な取り組みを、相互に関連づけ、有機的に

全教育活動を通してキャリア教育を行うことができる。

**Q28 キャリア教育を実施し、充実させるためには、評価活動が必要である。キャリア教育の評価はどのようなものか**

- (1) 児童・生徒のキャリア発達に対する評価
  - ①児童・生徒の自己評価
  - ②保護者との面談による情報
  - ③職業適性テストなどの進路適性テスト
- (2) 学校のキャリア教育に関する教育活動に対する評価
  - ①教員による授業評価（学校評価の項目に加える）
  - ②児童・生徒による授業評価
  - ③保護者・地域による学校外からの評価（家庭や地域と連携した活動後の評価や年度末の学校評価）
  - ④一人ひとりの教員によるキャリア教育に対する自己評価

**Q29 キャリア教育の目標とキャリア教育で育てる4つの基礎的・汎用的能力との関連を見いだしてどのように授業を行うことができるのか**

キャリア教育と学習内容との関連は教科によって異なる。教科や単元によって、重点的に育てやすい能力がある。例えば、国語科における人間関係形成・社会形成能力、社会科におけるキャリアプランニング能力などのように、考えやすいところから始めるとよい。

**Q30 普段行っている授業で4つの基礎的・汎用的能力の育成をどのように図るのか**

例えば、調べ学習では、キャリアプランニング能力、発表形式の授業は、人間関係形成・社会形成能力、問題解決学習は課題対応能力等の育成に結びつく。

**Q31 キャリア教育の核となる主な教育活動はどのようなものか**

- (1) 学級や学年の友達、異学年集団、地域の人など、多様な人々との関わりを重視した活動
- (2) ものづくり、職場体験、インターンシップ、ボランティア活動、福祉体験などの体験活動
- (3) 異校種、家庭、地域、関係機関との連携による活動
- (4) 学習のまとめとして、児童・生徒が学習成果を振り返り、次へのめあてをもつ活動
- (5) 進路指導など、将来の人生を考える活動 など

**Q32 道徳とキャリア教育はどのように関連しているのか**

道徳教育の目標は、児童・生徒の道徳的心情を豊かにし、道徳的判断力を高め、道徳的実践意欲と態度の向上を図ることを通じて、人間としての生き方についての自覚を深め、道徳的実践力を育成することである。このため、キャリア教育と深い関係がある。

### Q33 キャリア教育の視点を加えた道徳の授業は、どのようにすればよいのか

- (1) 道徳の目標とキャリア教育で育てる4つの基礎的・汎用的能力との関連を見出して授業を行うことで、キャリア教育の視点に立った授業を行うことができる。
- (2) 道徳の目標と内容は、キャリア教育と密接に結びつく。勤労観・職業観の育成を考えて取り組むことが大切である。

### Q34 道徳の授業でキャリアプランニング能力や課題対応能力を育成するためにはどのような手だてがあるか

目標に向かって努力することの大切さや良いことと悪いことを区別し、良いことを行うことの重要性を考えるなど。

### Q35 総合的な学習の時間とキャリア教育ほどどのように関連しているのか

総合的な学習の時間のねらいは、学び方やものの考え方を身につけ、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の在り方や生き方を考えることができるようにすることにある。また、ボランティア活動や就業体験などの社会体験、発表や討論、ものづくりや生産活動など体験的な学習、問題解決的な学習などを積極的に取り入れた学習活動がなされる。したがって、「人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力」を育成するために、重要な役割を担っている。例えば、課題対応能力を育成するためには、課題を自分で考えさせる、自分の分担の仕事を担当もって行わせるなどが上げられる。

### Q36 特別活動とキャリア教育はどのように関連しているか

特別活動の内容は、学級や学校の生活への適応や個人及び社会の一員としての在り方、生き方に関する事、将来の生き方と進路の適切な選択決定に関するものなどである。このため、キャリア教育を進める上で重要な役割を担っている。

### Q37 キャリア教育の視点を加えた特別活動の授業は、どのようにすればよいのか

- (1) 特別活動の目標とキャリア教育で育てる4つの基礎的・汎用的能力との関連を見出して授業を行うことで、キャリア教育の視点に立った授業を行うことができる。例えば、テーマを決めて新聞記事を収集し、自分の考えをまとめスピーチさせる。修学旅行先の歴史、文化、産業を調べさせたり、自由行動の行程を作成させるなどはキャリアプランニング能力の育成につながる。
- (2) 特別活動の目標と内容は、キャリア教育と密接に結びつく。勤労観・職業観の育成を考えて取り組むことが大切である。

### Q38 異校種と連携した活動を行う目的は何か

- (1) 小学校、中学校、高等学校の12年間を見通したキャリア教育を行うためには、異校

種での教育活動について共通理解を図ることが大切であること。

- (2) 小学校から中学校、中学校から高等学校へと円滑に移行していくためには、子ども自身が進学する学校について情報を収集し、心の準備をすることや、求められる力を知ることが必要であること。
- (3) 異年齢の児童・生徒と交流する学習は、人間関係形成・社会形成能力の育成に大切であること。

#### Q39 高等学校と大学・専門学校との連携活動にはどのような活動があるのか

- (1) 大学・専門学校のオープンキャンパスの実施
- (2) 高校生の大学の講義の聴講。
- (3) 大学からのいわゆる「出前授業」 など

#### Q40 学校が家庭・保護者と連携することの必要性はどのようなことか

家庭の養育の在り方、働くことに対する保護者の考え方や態度は、児童・生徒のキャリア発達や勤労観・職業観の形成に大きな影響を与える。したがって、キャリア発達をうながし、勤労観や職業観を育むためには、家庭・保護者と共通理解を図り、連携してキャリア教育を進めることが大切である。

#### Q41 学校と家庭・保護者が連携する活動にはどのようなことがあるか

- (1) 児童・生徒のキャリア発達の状況や学校の教育活動に関する理解を深める活動
  - ①学校だよりなどによる児童・生徒の様子への報告
  - ②保護者会などにおける児童・生徒のキャリア発達に関する意見交換の場の設定
  - ③学校公開などの開催
  - ④保護者会の開催とそこでのキャリア教育の活動状況の報告
- (2) 児童・生徒一人ひとりへの適切な支援をするための活動
  - ①三者面談の実施
  - ②保護者からの学校への児童・生徒の状況に関する密な連絡
- (3) キャリア教育の必要性等に関する理解を深める活動
  - ①産業構造の変化や進路をめぐる環境の変化等に関する情報提供
  - ②大学のカリキュラムや就職指導の状況に関する情報低挙
  - ③PTA活動におけるキャリア教育の必要性や保護者の役割などに関する研究協議会の開催
- (4) 学校の教育活動に参加する活動
  - ①保護者の学校行事への参加と運営の協力
  - ②保護者が職業人講話の講師として仕事について話すこと
  - ③保護者のボランティア活動やインターンシップなどの受け入れ先探しへの協力など

## Q42 家庭・保護者との連携を密にするにはどうしたらよいか

いて共に学ぶ機会をつくり、キャリア教育の必要性への理解を深めさせる。

## Q43 地域との連携によりどんなことが得られるか

地域と協力して職場体験等を実施することで、児童生徒の体験の場が広がり、働くことの意義や、役割、社会人に求められる姿勢を理解させることができる。それにより、キャリア発達が進むことが期待される。また、児童・生徒に望ましい勤労観・職業観を育み、将来に向けて主体的な進路選択について異動や支援ができるよう学校や家庭、地域パートナーシップを發揮して、互いにそれぞれの役割を自覚し、連携して取り組むことが重要である。体験活動や学校行事に地域の人たちも参加し、互いに意見等を出し合うことで、キャリア教育への理解が深まる。

### ○児童・生徒にとって

- ①自己理解を深め、職業の実像をつかみながら、望ましい勤労観・職業観を身につけることができる。
- ②学校の学習と職業との関係について理解を深めることができる。
- ③コミュニケーション能力の向上を図ることができる。
- ④社会で必要な知識や技術を学ぶことができる。
- ⑤社会的なルールやマナーを体得することができる。
- ⑥地域や事業所に対する理解を深め、地元への愛着心を高める。

### 職場体験の意義

### ○地域にとって

- ①地域の人たちの児童・生徒理解の促進
- ②地域が一体となって生徒を育てようとする機運の醸成
- ③地域への理解促進

### ○事業所にとって

- ①児童・生徒に対する見方の変化
- ②時代を担う人材育成
- ③企業の社会的役割の具現化
- ④地域における企業価値の向上
- ⑤地域への貢献
- ⑥職場の活性化
- ⑦社員教育の一環

## Q44 児童・生徒の自己を見つめる力を育て、自己理解を深めさせるにはどうすればよいか

○児童・生徒の自己を見つめる力を育て、自己理解を深める方法

児童・生徒が、自らの目標を知り、その目標の達成をみざして活動し、自分自身を適切に評価する。さらに、次の目標を設定することを繰り返す、積み重ねていくことで、自己評価する力が高まり、児童・生徒は自己理解を深めていくことができる。このとき、発達段階に応じた4つの基礎的・汎用的能力の育成目標を指標として活用することで、小学校、中学校、高等学校の12年間を通した一環的な指導・援助ができる。

#### Q45 活動記録を作成する目的はどのようなことか

活動記録は、児童・生徒自身がキャリア教育に関する様々な活動を記録することを通して、自己を見つめる力を育て、自己理解を深めるためのものである。(参考資料：東京都教育委員会)